研　修　班　だ　よ　り　　No. 5

■深い学び～覚えるから使えるへ～

1. はじめに

主体的・対話的で深い学びの実現として「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善が求められています。「アクティブ・ラーニング」の視点は、知識・技能を生きて働くものとして習得することを含め、育成すべき資質･能力を身につけるために必要な学習過程を実現するためのものです。生きて働く知識･技能の習得を含む資質･能力の獲得には、学習内容の深い理解が不可欠であり、「主体的な学び」「対話的な学び」のみならず「深い学び」の重要性にも留意する必要があると言えます。

2. 深い学びとは？

各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」が必要とされています。具体的な例としては、次のような内容が参考になるかと思います。

・事象の中から自ら問いを見いだし、課題の追求、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
・精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
・感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく

3.「論点整理」の中では

「教育課程企画特別部会における論点整理」の中では「深い学び」について次のように触れられています。

（ｉ）習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。

新しい知識や技能を習得したり、それを実際に活用して、問題解決に向けた探究活動を行ったりする中で、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮される場面が設定されることが重要です。教員はこのプロセスの中で、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められます。